

前者とは肉眼での判別ができなかったが、持ち帰って実体顕微鏡下で見出したものである。

♂交尾器(図2-3)と雌雄それぞれの腹部第7背板・同腹板の形態を、Hisamatsu (2019)の図示したものと比較し、本種と同定した。また、Hisamatsu (2019)の記録標本の採集者である前原和雄氏には、記録標本と同所で得られた、雌雄を含む標本群をお送りいただき、稲城市産と同種であることを確認した。

末筆ながら、貴重な比較標本を恵与された前原和雄氏に厚く御礼申し上げる。

引用文献

Hisamatsu, S., 2019. Discovery of *Meligethinus tschungseni* Kirejtshuk from Japan, the most eastward record of the genus *Meligethinus* Grouvelle (Coleoptera, Nitidulidae, Meligethinae). *Elytra*, Tokyo, New Series, 9 (1) : 117-119.

(伊藤 淳 183-0012 府中市押立町 5-1-25)

【短報】波照間島におけるガムシ科甲虫2種の記録

筆者は10月26日、27日の2日間波照間島で昆虫採集を行った。その際、波照間島から記録の無いツマキハバビロガムシ、イツモンハバビロガムシを採集したので報告する。

ツマキハバビロガムシ *Sphaeridium discolor* d'Orchymont, 1933 (図1)

5 exs., 沖縄県八重山郡竹富町波照間, 26. X. 2018, 筆者採集・保管

本種の和名であるツマキハバビロガムシは2004年以前 *S. dimidiatum* に対して使用されていたが、日本の南西諸島に分布するとされていた *S. dimidiatum* は、前転節の棘などの形態から *S. discolor* と同定された (Jia & Ôhara, 2004)。



図1. ツマキハバビロガムシ. *dimidiatum* として記録さ

れたものも含む。

イツモンハバビロガムシ *Sphaeridium quinque maculatum* Fabricius, 1798 (図2)

1 ex., 沖縄県八重山郡竹富町波照間, 26. X. 2018, 筆者採集・保管

本種は東洋区に広く分布する種である。国内では石垣島、西表島が記録地として挙げられている (東ら, 2002)。



図2. イツモンハバビロガムシ.

両種とも波照間島屋空観測タワーから波照間空港に向かう途中にあった牛糞(N24.0524940, E123.8022710)より採集した。

引用文献

Jia, F. & M. Ôhara, 2004. *Sphaeridium discolor* d'Orchymont (Coleoptera, Hydrophilidae) newly recorded from Japan and Indonesia. *Elytra*, 32 (1) : 51-56.

廣森敏昭, 2003. トカラ列島悪石島, 2002年8月の昆虫. 鹿児島県立博物館研究報告, (22) : 75-82.

新居 悟, 2009. ツマキハバビロガムシの屋久島の記録. 甲虫ニュース, (166) : 14.

山崎仁也・村松雅史・小浜継雄・長田 勝・野林千枝, 2019. 伊平屋島・野甫島の昆虫目録. 伊是名島・伊平屋島総合調査報告書, 沖縄県立博物館・美術館 : 25-36.

東 清二監修, 屋富昌子他編, 2002. 増補改訂 琉球列島産昆虫目録. 沖縄県産生物目録シリーズ1増補改訂. 沖縄生物学会, 榕樹書林. 175 pp.

(吉田 匠 390-0802 松本市旭3丁目1

信州大学理学部理学科生物学コース)

【訂正】さやばね35号掲載論文の一部訂正

本誌35号(2019年9月発行) pp. 32-34, 野村周平・山崎裕志著「東京都世田谷区からのアリヅカムシの記録」に誤りが2か所見いだされた。第一著者野村の確認不足が招いたものであり、共著者山崎氏並びに読者各位に対し、深くおわびするとともに、以下の通りに訂正させていただきます。

p. 32, 上から6行目“Yamasaki”→“Yamazaki”。

p. 32, 左下図1中の“Unane”の位置→

“Futako-Tamagawa”と“Koma-e-shi”の中間付近へ。

(野村周平 国立科学博物館動物研究部)